



次のステージ

あの舞台に向かって

年明け早々、大きな災害の報道が連日のように続きました。冬休みが終わると始業式を迎え3学期が始まること。当たり前のように思っていたこの時の流れを迎えられるのは、とても有難いことなのだと思われ改めて気づかされる年明けとなりました。

始業式では全校児童の皆さんに「3学期は46日間。6年生と一緒にいられるのは42日間しかありません。とっても短い学期です。一日一日をていねいに過ごしましょう！」と話をしました。進学・進級に向けての準備期間となる大切な学期です。子どもたちの心の中にも、次のステージを視野に入れた目標が胸に秘められていることと思います。とくに6年生にとって、この学期を大切にしようという思いは一入だと思えます。進学に備え、より一層力を高めることや最高学年として背負ってきた中春小の看板を次の学年に引き継いでいくことなど、自分たち自身のこと、それと同じようにこれから中春小を創っていく下の学年たちへの思いが入り交じる心持ちなのではないかと思えます。

そういえば最近も、6年生がいい刺激を与えてくれていると感じたことがありました。休み明けに行われた冬休み発表会の場面です。夏休み明けは集合形式で行っているのですが、昨年に引き続き、冬休みは端末のビデオ会議の機能を用いてリモートで行われました。代表の児童は各学級から発表し、それぞれの教室でテレビやスクリーンを通して発表を聴きます。集合形式と違い、リモート発表の良さの一つはクローズアップできることだと思います。発表者の説明に合わせ、カメラが作品に寄りその部分をアップで映し出すことで、観てほしいところに聴衆者を引きつけることができるのは大きな魅力です。どの学級も上手に発表ができていました。そして、その特性をうまく生かしていたのが6年生の発表でした。あらかじめカメラワークを考えて教室の所々に発表者がスタンバイしていて、発表順に合わせてカメラ担当の児童がカメラを動かしながら発表の様子を撮影していました。その実況中継に見立てた発表の様子は見応えがあり、とても新鮮でした。小学校にしかない作品発表会は、6年生たちにとっては最後の行事。「最後なので楽しく、思いきりやろう」という気持ちで臨んでくれたのだと思います。その取り組みの姿勢から創られた発表は、観る者の心に響くものがあつたのではないかと思います。そしてまた、その姿勢は次のステージへとつながっていくのだろうと感じました。

まわりの人たちの心に響くといえ、21世紀枠として、第96回選抜高校野球大会に出場を決めた別海高校野球部の朗報には熱くなりました。秋季地方大会で上位の成績を収めていることに合わせ、「文武両道」や「困難克服」を実践してきた、高校野球の模範となるような高校であることが推薦条件のこの特別枠の獲得は、町民として嬉しく感じるとともにとても誇らしく思いました。新聞に掲載された「今まで支えてくれた人たちに結果で恩返しできるよう、あの舞台に向かって頑張っていく」という主将の生徒の決意に力強さを感じさせられます。自分たちが追いつけた夢を手にした快挙が、多くの人々に夢と希望を与えてくれたことは、とても素晴らしいことだと思います。

別海高校野球部の皆さんや指導された監督をはじめ関係者の皆様には心からの祝福を贈りたいと思います。誠におめでとうございます。

暦をめくれば春。しばらくは寒さの底が続きそうですが、日中窓から差し込む日差しの暖かさや少しずつ昼が長くなるのを感じられる頃となりました。どうぞお体にご留意いただければと存じます。